

1 損益計算書とは

株式会社ジュエリー商會は、宝石や貴金属類の小売りをを行っています。まだ開店して間もなく、今日、初めて4月分の決算資料が経理を担当している新米さんのところへ、会計事務所の江羅井先生から届けられました。



Q 先生、今月の決算はどうだったんでしょうか。

A 15万円の黒字ですね、新米さん。

Q 社長に報告しなければならぬのですが……どんな内容ですか？

A まず、この「損益計算書」を見ていただきましょうか。

儲けを知るための表

損益計算書

○年4月1日から
○年4月30日まで

費用		収益	
売上原価	80万円	売上	140万円
給料	30万円		
家賃	10万円		
支払利息	5万円		
純利益	15万円		
合計	140万円	合計	140万円

売上から諸経費を引けば



A この表で、左側の一番下に出ている“15万円”が利益です。この1カ月に売上が“140万円”あって、そこから売上原価や給料などの支払を引いた残りが、「純利益」ということです。

Q 「売上原価」って何ですか？

A その前に——この1カ月の会社の動きについて、以前に次のようなメモを新米さんからいただきました。それと関連させながら説明しましょう。

- 4月1日 資本金1,000万円で、株式会社ジュエリー商會が設立された。
- 4月5日 ショーケースや応接セットなどの備品類を200万円買った。
- 4月10日 商品の宝石類を次のとおり、合計120万円分仕入れた。
 ダイヤモンド1個 50万円
 ルビー1個 30万円
 サファイア1個 40万円
- 4月12日 銀行から200万円借り入れた。
- 4月15日 ダイヤモンドが80万円で売れた。
- 4月20日 ルビーが60万円で売れた。
- 4月25日 店員2人分の給料を30万円支払った。
- 4月28日 店の家賃を10万円支払った。
- 4月30日 銀行からの借入金利息3カ月分5万円を支払った。

儲けの元手が売上原価



Q 損益計算書で「売上」が140万円になっているのは、15日と20日にダイヤモンドとルビーが売れた分のことですね。

A はい、そうです。この140万円の全部が“儲け”ではないというのはわかりますよね。

Q それはそうですよ、元手が掛かってますから……。

A その“元手”というのが「売上原価」です。つまり、ダイヤモンドとルビーの仕入値が両方で“80万円”で、これが損益計算書に載っているわけです。